

【 Iron Road を歩く 古代たたらの郷 奥播磨の中国山地から流れ出た千種川の河口 赤穂 】
久しぶりに名前に「鉄」のつく山 赤穂 黒鉄山を歩きました

兵庫 100 名山 赤穂市「黒鉄山」と赤穂千種川河口 walk 2017.8.19.



1. 兵庫 100 名山「黒鉄山」に登る
2. 赤穂港・千種川河口 walk 砂鉄浜の痕跡を探して
3. 千種川堤防から赤穂城址

参考図 赤穂に塩田を作り出した播磨北部のたたら製鉄 & 赤穂の塩田開発の歴史地図



兵庫北播磨中国山地の古代たたら郷 千種・作用から南に流れ下り、瀬戸内海に注ぐ千種川。その河口に開けた赤穂は砂鉄採取の土砂など千種川の土砂が堆積してできた塩浜塩田の街として知られる。

その河口には今も土砂と一緒に堆積した砂鉄浜があるかもしれないとふと思い、地図を広げていて、赤穂の街の西北部に「黒鉄山」の名を見つけました。

岡山/兵庫の県境をなす山塊から狭い谷筋を東へ流れ下る大津川が、この山のすぐ南を流れ下り、周辺地域には大津そして船渡の地名もあり、その東南には現在の赤穂の町が広がり、赤穂の街・塩田・港を作った千種川がその東側を流れ下る。この大津川・千種川の河口周辺では赤穂の海岸線が深く入り込んでいたと推定される。

また、黒鉄山山腹には蛸石や黄鉄鉱などを算出した鉱山(湯ノ内&第二湯の内 鉱山)がある。

今回 黒鉄山を登ってみて、山中の登山道で見たザレ石の割れ目には数多く褐鉄鉱の鉱脈が見られることなど、考えると黒鉄山の名は「鉄」に関連して名づけられた山だろうと思っています。

また、かつて塩田が広がる赤穂の街の沿岸部に砂鉄の体積した浜はなかったと思うのですが、千種川の河口周辺で、砂鉄浜を見たとのブログを見た記憶もあり、「黒森山へ登って 赤穂の街の沿岸部・千種川の河口も見たい」との思いがめらめらと。8月19日朝早くに神戸を出て 久しぶりのIron Road 和鉄の道「千種川の河口赤穂」に出かけてきました。



赤穂市西浜 港の工場地帯から黒鉄山を正面に眺める
頂上にある反射板が目印 赤穂の市街地 どこからも見える



JR 播州赤穂駅前 2017.8.19.
新快速電車で神戸から約 1 時間 11:10 到着

暑い夏の日 お盆も過ぎて、駅前はどこか言うとな静かなもの。

今日は 千種川河口の赤穂で たたら痕跡をたずねる walk。赤穂の街と瀬戸内の島々が一望できるという「鉄」の名がつく黒鉄山へ登って、上から赤穂の街と千種川河口を眺め、そのあと、赤穂の港から千種川の河口へ歩いて、たたら痕跡を探す。千種川上流から流したたらの痕跡などないといわれるのですが、鉄の山 黒鉄山そして 千種川の河口をじっくり歩くのは初めて。興味津々。毎度のことながら、行き当たりばったりの山・そして海岸歩きである。



とりあえず駅の観光案内所へ飛び込んで 色々教えてもらう。

「赤穂の海岸で砂鉄が見られる場所が残っていないか?」と 聞きましたが、やっぱり海岸に堆積した砂鉄など誰も知らないという。

また、黒鉄山へのアクセスについては

黒鉄山の登り口大津地区へはバスがあるが、本数が少なく歩くと随分かかると教えてもらう。

赤穂駅前から タクシーで黒鉄山の登り口まで行って、山に登る。 高さは 430m 赤穂の背後の山 約 1 時間で登れ、赤穂の街から瀬戸内の海が素晴らしいと聞き、気楽なハイク気分。

でも兵庫県 100 名山の山。 きっと由緒ある楽しい

山に違いない。そのあと 赤穂の街の沿岸部を歩いて、千種川河口へ行く目的があるので、頂上での展望を楽しむ。特に赤穂の沿岸がどうなっているのか 上からしっかり眺めよう。あとは同じルートを引き返して、ぶらぶら周囲の景色を眺めながら、赤穂の街へ出て、赤穂の港沿岸を千種川河口へ walking

真っ青な青空。 今日も一日暑そう。 しっかり 水分補給せねば・・・。



【 Iron Road を歩く 古代たたらの郷 奥播磨の中国山地から流れ出た千種川の河口 赤穂 】

兵庫 100 名山 赤穂市「黒鉄山」と赤穂千種川河口 walk 2017.8.19.

西播磨の赤穂の街と瀬戸内海の見晴らし台

1. 兵庫 100 名山 標高 430m 「黒鉄山」に登る



地図をもらって タクシーで 赤穂駅前出発。 11:20

帰りの町中への道筋を頭に入れながら、赤穂駅前から東へ国道 256 号。海岸を西へ向かう国道と新田の大きな交差点で別れ、右へ大津地域から山並みの間を備前へ向かう県道 96 号線に入る。

大津川の橋を渡ると道は 西へカーブして、山間の大津地域。山陽自動車道をくぐると右手山並みに沿って山陽新幹線の高架橋が見え、その後ろ中央にどっかりと座る黒鉄山が座っている。この高架橋の所が黒森山の登山口だそうだ。県道 557 へ入る標識で北に折れて、黒鉄山の山裾湯の内集落へ向かい 新幹線の高架の手前からの細い道を西へ高架をくぐったところが、黒鉄山の湯の内登山口だった。TAXI で 15 分弱でした。

幸運にも運転手さんは 何度か登山口まで案内したことあるので、道はわかると聞き、ラッキー。

砂鉄の話もし、無線でいろいろ聞いてくれたのですが、やっぱり知らぬと。



黒鉄山湯ノ内登山口 大津地区湯ノ山団地から黒森山の山腹を北に超えて国道 2 号線へ向かう入口

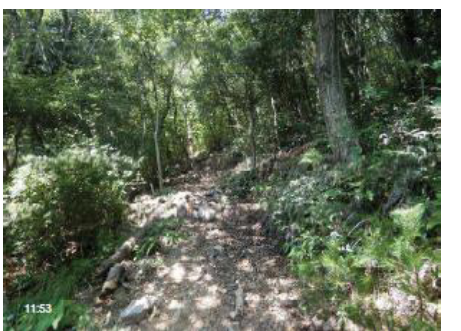
山陽新幹線が西へ黒鉄山の山裾を通り抜けてゆくすぐ脇でした



扉を閉めて黒森山の登山道へ入るほぼ まっすぐ直登の浅い谷筋を頂上部まで登ってゆく 2017.8.19. 11:38



赤い鳥居の鍋森神社の森 ここから林の中 直登ルートの浅い谷道が頂上へ 予想もしない悪路との格闘でした 11:46.



足元の石を眺めると
鉄鉱脈と思われる赤黒い筋や
そして割れた表面の上に赤黒
い面がみえる
この赤黒い鉱物は鉄系鉱物な
のだろうか？
この山の石に見える鉄系鉱物
の存在が 黒鉄山の名前の由
来かもしれない。

明るい谷筋ですが、登るたびに足元がズルズル崩れるでこぼこのジグザグ道 おまけに大きな石と小さな石 木の根 小枝が顔を出す。里山防災林整備の案内板 よく整備されて、楽勝と思ったのですが・・・・・・。

黒鉄山の山腹を美しい里山に整備する事業で遊歩道・植林整備が行われたと意味を取り違えていました。

歩き出してわかったのですが、頂上部のすぐ下まで、軟弱ですく崩れてくる足場の悪いガシ場がつづく谷筋。

直登ルートではあるのですが、防災上は危険な場所。それを克服するため、防災林整備がなされた場所で、道は登山道というより、防災林の管理道路というのが目的のようでした。

短時間で頂上に到達できるが、悪路。長いこと 格闘したように思ったのですが、10数分で落ち着いたのぼり道に。





登山道の標識が見え ここから整備された階段道がまっすぐ上へ整備されている。
もうガシ場も抜けるだろう。 ほっと一息 12:04



まもなく黒鉄山の頂上部の台地の東端。そのまま頂上部を乗越して北の笹谷へ下る道との分岐。
道はここで90度西へ折れ曲がり、空が開け、黒鉄山のシンボル反射板の横を過ぎると東西に細長く広がる頂上部。



頂上台地の東端に反射板が見え、中央には赤穂の街の奥 瀬戸内海に家島群島・小豆島。直下に目を向けると
登山口へ先程入ってきた備前へ抜けてゆく県道56号の山間沿い。
狭い大津川の谷間を山陽自動車道と新幹線が交差して走り抜けてゆくのが見える。



黒鉄山から南側の展望 左 赤穂の街の後ろに家島群島 右に小豆島が浮かんでいる



黒鉄山から眺めた赤穂 左手に千種川 右手に赤穂の港が見える



東西に延びる広い台地の北側には 岡山・兵庫県境の山が迫っている
標高430m 黒鉄山 到着 記録箱前 2017.8.19. 12:50

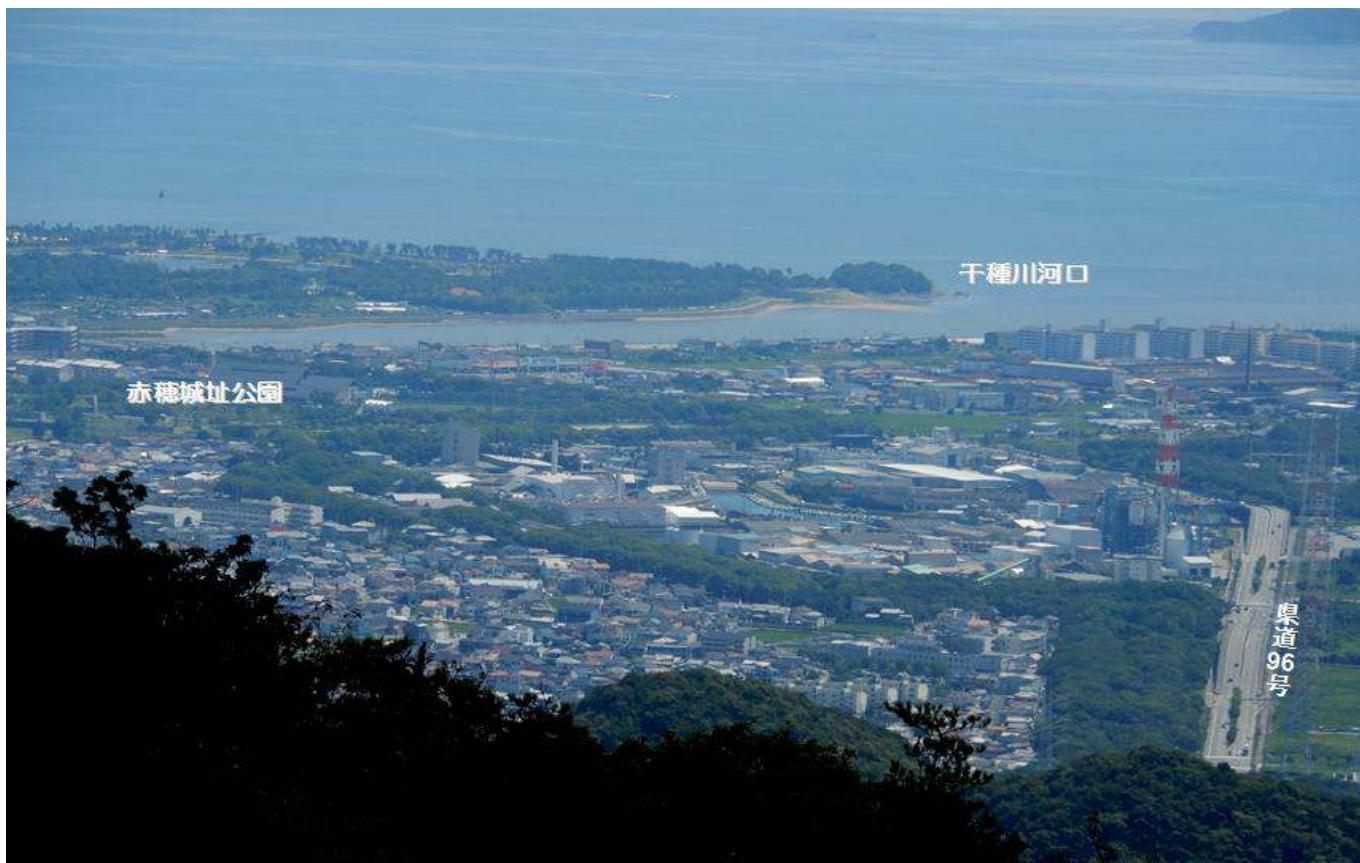


黒鉄山山頂 登山記録箱の近くに2つの祠があるが、今は見落とした。2017.8.19.



黒鉄山から北側の展望 2017.8.19. 山まだ山 麓里にも山並みが残っていました。
山の名称はよく知りませんが、一番奥に見える山並みは中国山地、岡山・兵庫県境の山々。
左奥の山は岡山県の那岐山、そして、右手奥は、千種川の流れる奥播磨・千種の山並みでしょうか、。

標高430m 黒鉄山
到着 記録箱前
2017.8.19. 12:50



黒森山より 千種川河口に広がる赤穂の市街地 遠望 2017.8.19.

- 写真中央左から右へ流れ下る千種川の河口が見えて、河口東岸 兵庫一の低山 唐船山も見える
- 写真右端にはまっすぐ赤穂の港へ向かう県道96号が見え 赤穂の中心部を取り囲んで東の千種川河口へ
- 写真には見えていないが 県道96号線の右にかつての西浜沿岸 赤穂の港がある



黒森山の頂上から千種川西岸沿岸に砂浜があるか 目を凝らす

千種川河口にひろがる赤穂の市街地

加里屋の関電発電所の地先に砂州が見える

千種川河口西岸 かつての西浜塩田地帯に広がる赤穂港の工場群



赤穂の街の向こうに家島群島がくっきりみえました 2017.8.19.
淡路や須磨川から見えぬ西島全体の姿が見えてラッキーです



南西側 小豆島も少しかすんでいましたが、間近にながめられました 2017.8.19.

時間的余裕がないので いやな道ですが、まっすぐもと来た道を下山して、赤穂の沿岸部をしっかりと頭に入れ、次は赤穂の港から千種川の河口へ 13:18



13:47 ガレ道を下って 約30分 鍋森神社の入口に戻る。
約1時間で頂上に立ち、赤穂の市街地を中心とした瀬戸内の展望は素晴らしく、兵庫100名山の山だと。

また、私には 久しぶりの「鉄」の名前がつく山。千種川・大津川が流した土砂が今の赤穂の街の原型を作ったことも実感できました。面白い山でした。次は千種川河口の砂鉄の痕跡探しのWalkへ

【 Iron Road を歩く 古代たたらの郷 奥播磨の中国山地から流れ出た千種川の河口 赤穂 】

兵庫 100 名山 赤穂市「黒鉄山」と赤穂千種川河口 walk 2017.8.19.

2. 赤穂港・千種川河口 walk 砂鉄浜の痕跡を探して 港から千種川河口へ



夏の日差しがテルつける中、湯の内から県道 96 号線の T 字路に戻ると都合のいいことに 15 分ほど待てば、赤穂の街へ出る 14:30 のバスがある。

黒森山の頂上から眺めたまっすぐ港へ出る県道 96 号と国道 250 号との交差点 新田までバスで行くことにする。

JR 赤穂駅行のバスに飛び乗って、この県道と国道が交わる新田居村のバス停まで乗車。ここで下車して港へ歩くことに。

バスの窓からは黒森山頂上部にある反射板が見えていました。





新田の県道と国道の交差点



14:50 国道 250 へ曲がるバスを降りて、新田からまっすぐ南 赤穂の港 西浜地区に向かって 地図を見ながら、県道 96 号線を赤穂の港へ。この県道 96 号は赤穂の市街地の南縁を西から東へカーブし、東の千種川を渡り、相生へ。この道の海側がかつての赤穂西浜の塩田地帯で、現在は赤穂の港を取り囲んで大きな工場が立ち並び工業地帯となっている。赤穂港・千種川河口西浜地域で砂州があるか確認したいポイントをチェックするのが目的で、黒鉄山から沿岸の状況も頭に入れ、地図を見ながら、新田から南へ県道 96 号を歩いている。



新田から、まっすぐ南へ 赤穂の港へ向かう県道 96 号線
赤穂線高架橋より 北側を振り返る 2017.8.15. 15:22

第 1 のチェックポイント「赤穂港 南端の西浜」と「発電所突端」へ向かうため、新田からまっすぐ南 赤穂の港 西浜地区に向かって県道 96 号線を歩いて、ちょっと 道草を食いましたが、今 JR 赤穂線を渡る高架橋の上にいる。振り返ると真正面に黒鉄山が見え、頂上部の反射板も見えている
この高架を越えて 次の運河にかかる高架を渡らず西浜地区東端から運河に沿って南へ赤穂港東側の突端へ行く

◎ 西浜町の東端 運河に沿って南へ 運河の出口 赤穂の港 ①のポイント赤穂港 西浜東南端へ



県道 96 号線の運河にかかる橋から西方に①のポイント 赤穂港 東南端 西浜地区(運河右)遠望
左側 関電赤穂発電所の煙突が見え 中央奥の広い海水面が赤穂の港です

対岸の関電赤穂発電所が見えているよく整備された護岸。覗き込んでみるが、船が奥へ出入りする運河で砂州はない
西浜町は沿岸に住友大阪セメントの大工場があり、この東端からしか先端部へは行けなかった。また、当然ながら対岸の赤穂発電所の地先へも発電所を通らねばならず、自由には行けぬ。護岸沿いの道は高い防潮堤 運河の中は見えぬ。



第1のチェックポイント「赤穂港 南端の西浜」地区



西浜町の赤穂港 港は防潮堤でしっかり護岸されていて浜は見られぬ



東側運河対岸の関電発電所地先にみられる砂州 よくわからぬが砂鉄は見られない

千種川河口西岸の沿岸部は赤穂港を中心に工業地帯。東日本大震災の教訓から沿岸部は大津波対策の耐震大防潮堤が張り巡らされている。護岸工事で砂浜も消失し、もうアリの隙間もないくらい漏れがない。

赤穂の沿岸には 関電の新鋭の赤穂発電所があるので、まず一番に防災がなされたのでしょう。

地図や山の上から赤穂沿岸を眺めて、もう砂鉄浜は残っていないとは思いましたが、防災の徹底ぶりはすごい。

防災とはいえ、浜に住みながら海が見えない現象が 日本各地でおこっているのだとちょっと気分は複雑。

そんなことを考えながら、はりめぐらされた防潮堤を見上げつつ、もと来た道をひきかえし、

次のポイント②加里屋川河口の先端部に向かって 赤穂港の東端 西浜を後にする 15:40



西浜の島南端からながめる北側 かつて塩田が広がっていた西浜の埋め立て地は雑草に覆われた遊休地

◎ 元の県道 96 号線の運河にかかる橋を東へ渡って ②のポイント加里屋川河口の先端 中広埠頭へ 15:56
元の県道 96 号線の西浜地区と南東側赤穂発で所のある加里屋地区を分ける運河にかかる橋を東に渡って ②のポイント加里屋川河口の先端 中広埠頭(加里屋川河口の先端)へむかう。 15:56



関電赤穂発電所の前を通り、さらに西沖の信号を過ぎて、加里屋川にかかる城南橋を南に折れて、川に沿って ②のポイント 加里屋川河口 中広埠頭に向かう。16:14

遠く南に 加里屋川河口の水門が見え、加里屋川の右に赤穂発電所の大きな煙突を見ながら河口へ
また、関電発電所の構内になっていて、行けぬと思っていた赤穂発電所のある加里屋地区の先端の松ノ鼻側へも
西沖の信号から 後で 行けると知りました。

16:32 加里屋川河口 中広埠頭の先端 到着



象の鼻中広突堤から南西側外海



沖の鼻 中広埠頭



象の鼻から東の千種川河口へ
巨大な防波堤がまっすぐ伸びている



現在地
松の鼻
中広埠頭

日が傾きだしましたが、赤穂港の大きな埠頭が河口にある加里屋川河口に到着。眼前には大きく瀬戸内海が広がり、この埋め立て地(千鳥町地区)の南端に沿って、千種川の河口まで、まっすぐ巨大な防波堤が伸びていました。

また、河口から外海へ突き出した中広突堤の向こうには、小豆島がすぐそこに見え、その手前には傾きだした太陽に海が光って、美しい。

この突堤の根元には少し砂がたまっていました。砂鉄は見られず。

赤穂の海岸線の強固な防潮堤 そして高潮・津波への防災の強固さに目を見張る。

日ごろ海岸線の防災などほとんど見る機会なく、本当にびっくりしています。



加里屋川河口東岸の先端 google earthより
河口から海へ中広突堤が突出し、東には千種川の西岸まで、強固な防潮堤が伸びている



外海へ河口から突き出した中広突堤 2017.8.19.

防潮・突堤の下は岩とテトラポットで固められていて、砂浜はないが、突堤と防潮堤の角の所に小さな砂の堆積がある。しかし、砂鉄は見られなかった

◎ 中広埠頭の先端から堤防の上を東へ歩いて千種川河口 ③のポイント 千種川河口の西岸の先端へ



防潮堤は陸側も含め、三段の巨大なもので岩で固められ、砂州などは千種川の河口まで全く見えない。

街の人によれば、赤穂の沿岸は埋め立てで、沿岸の出入りがなくなり、外海の流れを遮れないので、砂は余計に堆積しなくなっていると。 港の機能としては深くていいのでしょうか・・・

この外海側の2段目を東の千種川へ向かうのですが、私の背丈よりも随分高い。先端まで行って、内側へ乗り越えられるかちょっと心配になって周辺にいる人も自信ないという。

でも 内側歩くと海側が見えぬ。とにかく 外海側を歩いて、千種川の河口の先端部へ。ダメなときは引き返すと。





千種川内岸 赤穂海浜公園

防潮堤突端から家島群島

遠く海上に浮かぶ小豆島



東側の防潮堤

防潮堤突端

防潮堤西側

海浜公園から赤穂岬

家島群島

赤穂港周辺

奥播磨 たたら山郷 千種から流れ出た千種川 河口 16:47 到着

かつて たたら製鉄の山崩して流れ出た土砂が河口に堆積し、赤穂の町や赤穂の一大産業になった塩田が広がる遠浅の沿岸を形成したといわれる。そんなたたら山郷の痕跡が無いのか訪ねて赤穂沿岸歩きましたが、いまや沿岸は大津波・地震の防災対策の巨大堤防で囲まれて、砂洲・砂浜も焼失。

かつての塩田跡や海岸は、埋め立てられ、今や日本の産業を支えるエネルギー基地・工業地帯に変貌。

この赤穂 千種川河口に広がる赤穂の港・工業地帯も たたら製鉄が残した遺産といえるだろう。

また、赤穂の町の背後にそびえる 兵庫 100 山「黒鉄山」はそんな たたら山郷の歴史と赤穂の町の変遷を静かに見てきたといえる。



【 Iron Road を歩く 古代たたらの郷 奥播磨の中国山地から流れ出た千種川の河口 赤穂 】

兵庫 100 名山 赤穂市「黒鉄山」と赤穂千種川河口 walk 2017.8.19.

3. 千種川の護岸堤防を歩いて赤穂の町へ帰る

夕暮れが迫る中、千種川の西岸堤防を上流側へ歩いて、赤穂城址へ 16:57



夕暮れが迫る中、砂州をチェックしながら、千種川の西岸堤防を上流側へ歩いて戻り、県道 96 号の上流側から赤穂のお城へ立ち寄って帰ることに。

河口対岸に見える赤穂海浜公園の西端に突き出た唐船山周辺にも 小さな砂浜や千種川の護岸に沿って小さな砂州が見られるので、カメラをズームアップして砂州をチェックしましたが、砂鉄堆積の痕跡見られず、街で聞いた通り。また、赤穂海浜公園の浜には最近では 他から砂を入れて 砂浜減退軽減をしていると街で聞きました。



県道56号線が走る赤穂海浜大橋周辺には幾つか中州が見られますが、雑草に覆われ、砂鉄を見ることがありませんでした



県道56号線が走る赤穂海浜大橋から上流の新赤穂大橋を眺める 2017.8.19.

17:30 千種川の堤防から左へ降りて、赤穂城を経由して JR 播州赤穂駅へ戻ることに。

赤穂城址公園で 2017.8.19.夕 17:45



千種川が流れ下る北播磨のたたら郷 千種や佐用には何度も行くのですが、千種川の河口をゆっくり歩いたことがないことから、いつも頭の隅にあった千種川河口 Walk。河口に砂鉄の堆積する砂鉄浜は残っているのだろうか？ 特に遠浅の塩田地帯西浜地区には 行ったことがない。ふと頭に浮かんだそんなことが、今回の Walk の発端。

以前訪れたことがある河口の東側 砂越や海浜公園でも砂鉄を見た記憶はないし、千種川河口の西浜は千種川が運んだ土砂でできた遠浅海岸の塩田地帯。今は工業地帯に変貌している。でも、この千種川河口の西浜には砂鉄が堆積しているとのブロックを見た記憶がある。ひょっとして そんな砂州が西浜にあるかもしれないと千種川の河口に興味津々。

早速、赤穂の地図を眺めて、見つけた「黒鉄山」の名 かつての西浜海岸の奥にそびえる黒鉄山素晴らしい展望の山という。「黒鉄山」の名を見つけて 俄然 赤穂の町 そして 黒鉄山に登りたいと。

一日かけて、黒鉄山に登り、また、かつての塩田跡 赤穂臨海の工場地帯の沿岸をめぐる walk 久しぶりに知らぬ街を歩く風来坊 砂鉄の痕跡は見つけられませんでした、楽しい 和鉄の道・Iron Road walでした

2017.8.19.夜 神戸に向かう新快速で Mutsu Nakanishi

◆追補 2017.9.10. 千種川河口の小砂浜に砂鉄を見つけました

千種川河口東端から東の唐船山下への小砂浜で 少しですが砂鉄が堆積



前回の砂鉄の痕跡を探す千種川河口 walk で 行けなかった千種川河口東端 唐船山の下の小砂洲。

気になっていたのですが、「塩田が見たい」という孫娘に便乗、これ幸いと 赤穂千種川河口東の海浜公園の塩田再現施設「塩の国」へ行きがてら、千種川河口東端 唐船山の下にある小さな砂浜の確認 に再度出かけました。

赤穂海浜公園はかつて千種川河口の東沿岸に広がっていた東浜の塩田跡に作られた広い公園である。

千種川河口東端の先端部の唐船山の下にある小さな砂浜。 護岸堤防の上からは一見何も無いように見えてましたが、浜に降りると波打ち際に沿って、砂鉄が堆積しているを見つけました

2017.9.10. Mutsu Nakanishi

9月10日 の朝神戸を出て、家内の運転で赤穂へ。 赤穂の街に入って、千種川の東岸の護岸堤防の上をごまっすぐ千種川東岸の先端へ向かう。正面 千種川河口の向こうの海奥に小豆島が見えだし、道は河口の先端部を東にカーブして、正面に緑の小さな丘 唐船山 その手前に小さな砂浜が見える。前回 河口対岸から遠望した小さな砂浜である。

唐船山の前で 護岸堤防の道は行き止まりで、ここにくるまを止めて 浜に降りる。

護岸堤防の上からは一見何も無いように見えてましたが、浜に降りると波打ち際に沿って、砂鉄が堆積しているを見つけました





千種川河口東岸先端 外海に突き出た唐船山下の小さな砂浜 少しですが砂鉄が堆積が見られました 2017.9.10.
この砂浜は護岸とともに、人工的に手が加えられている砂浜であり、一瞬 別の理由でできたものかと疑いましたが、波打ち際の傾斜が急になるところに沿って 砂鉄が並んで堆積。ちょうど、荒波が打ち寄せた時に、海へ砂を引きずって戻ってゆくライン際に並んで堆積している。

河口の波打ち際 千種川河口に運ばれてきた砂鉄が、海底に溜まり、荒波が起こった時に、底から巻き上げられ、荒波と一緒に 波打ち際に運ばれたもののようだ。

外海に突き出た西浜に対し、東側を海に突き出た荒船山と西浜護岸で外海と隔てられ、わずかですが、砂鉄の堆積環境が作られたものと推定される。磁石で確認しましたが、砂鉄に間違いなしでした。



千種川河口東岸 唐船山下の砂浜で採取した砂鉄 2017.9.10.
磁石に吸い寄せられ、また、粒の丸みもある



千種川河口東岸 唐船山下の砂浜に堆積する砂鉄 2017.9.10.

人工的に砂が入られ作られた小砂浜ですが 河口の波打ち際 千種川河口に運ばれてきた砂鉄が海底に溜まり、荒波が起こった時に、底から巻き上げられ、荒波と一緒に 波打ち際に運ばれたもののようだ。外海に突き出た西浜に対し、東側を海に突き出た荒船山と 西浜護岸で外海と隔てられ、わずかですが、砂鉄の堆積環境が作られたものと推定される



砂鉄の堆積を見つけた千種川河口東端から東の唐船山の下へ延びる小さな人口浜? 2017.9.10.

もう 千種川河口には上流から運ばれた砂鉄が堆積する浜はないと思いましたが、千種川東岸が外海に突き出た唐船山の下小さな人工の砂浜?には 打ち寄せる荒波で海底から巻き上げられた砂鉄が堆積しているを見つけました。

また、唐船山は兵庫県一の低山として知られていますが、難破した船に土砂が覆いかぶさり、形成されたとの伝承もあり、かつて千種川が上流のたたら製鉄の砂鉄採取の鉄穴流し等で生じた大量の土砂を河口に運んでいたことの伝承かもしれません。 気にかかっていた千種川河口の砂鉄 やつと疑問がクリヤーになりました。

2017.9.10. by Mutsu Nakanishi

参考図 赤穂に塩田を作り出した播磨北部のたたら製鉄 & 赤穂の塩田開発の歴史地図

【参考1】 兵庫県立人と自然の博物館 先山徹氏講演「赤穂」塩田を作り出した播磨北部のたたら製鉄より
 【たたら製鉄が地域の自然や文化に与えた影響 鉄穴流しがもたらしたもの】

www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/ir3kc04.pdf P3整理

鉄穴流しは、周囲の山を削り、地形を大規模に変えてしまいました。そのような地形は、千種町周辺に今も残されています。そして、鉄穴流しによって流された残りの土砂は千種川を下り、河口付近に堆積しました。中世になって赤穂で干潟が発達し、塩田がつけられた要因のひとつに、千種川上流のこのような「鉄穴流し」があったと考えられています。



【参考2】 赤穂の塩田開発の歴史地図(『赤穂市史第二巻』所収)より整理

<https://ameblo.jp/idryou/entry-11839752778.html> &

<http://chushingura.biz/gis/news01/news026.htm>

